

葉隠紅に綴りて（はがくれないにつづりて）
東京クロノスタシス楽団『IDOLYRIC ～サクラプロジェクト～』収録楽曲

【1A】

口ずさんだ歌は 虚空に溶け入りて消える
季節外れの音色 沁みる隙間もないまま

【1A'】

野風が導く彼の地の先 影法師追いかけた
移り気な雲に越されながら 歩み止めることなく

【1B】

花の跡に口づけて
滲む雫と静寂に寄り添う

【1S】

茜差す頬にかかる 繊翳に宿る愁いは
浮き沈む調べに 堅く唇を結ばせた

いつかの紅葉透かして 遠くに映るあなたを見れば
振り返る幻 包んだ夕霞
いろはにほへと 思い出よ

【2A】

見つめては離れて そっと手を振り眩いた
花筏のように 去り行くあなたの背に

【2A'】

水簾に落ちたその花卉 何処へ向かうのか問う
過るその姿 言葉さえも 蕾に降り注いだ

【2B】

雁渡が遮った
聴こえもしない凜とした呼び声

【2S】

私だけが知っている 眩耀の舞の行方を
泡沫のあなたは まるで彷徨った夜半の月

昨日の夢いたずらに 慕情くすぐらせるだけならば
いっそ捨ててしまおうかなんて言えない
独りきりでも けふこえて

【C】

語ろうか麗らかに 玉響の春を
あさきゆめみじ 糸ひもせず
されど私はずっと――

【ラス S】

時に逆らわず進む 足音が響き示した
千歳の囀りも 天に届く烈火の如し

澄んだ瞳を覗いて 誰が愚かと罵ろうとも
誓い飲み干したら 色は秘めたまま
葉隠紅に綴りて 明日には咲きましょう